

H29 年度 タイ夏期英語研修 報告書

報告者 都市教養学部 人文社会系 国際文化コース 3 年 荒井将甫

研修内容について

私は平成 29 年度の夏季休暇の後半の 4 週間、タイのチェンマイ大学の付属機関である語学研修センターにて夏期英語研修に参加しました。授業は月曜日から金曜日に行われ、週末にはフィールドトリップやホームステイ、その他自由行動などを行うというのが基本的なスケジュールでした。授業は一日当たり約 3 コマあり、1 コマあたりの時間はだいたい 3 時間でした。基本的な授業はネイティブの先生方による英語の授業ですが、数回ほどタイ語の授業もありました。

英語学習とタイでの生活および課外活動について

私がタイの研修に参加した目的は、英語でのコミュニケーション能力の向上、初めての海外への挑戦、知識だけではない経験を伴った異文化理解の 3 つでした。研修を通してこれらの目標はおおむね達成できたと思いますし、期待以上の様々な経験もできたと思います。結果的には、英語学習はもちろんですが、それ以外の点でも非常に有意義な研修だったと思います。報告したいことは非常にたくさんあるのですが、本報告書では主に英語の授業・学習に関することとタイでの生活および課外活動について報告します。

まずは英語学習についてですが、授業 1 コマあたりの時間が 3 時間だったので初めのうちはなかなかハードでした。形式的には首都大の NSE に近く、自分自身の考えを英語で表現する機会が非常に多かったです。受動的というよりもむしろ能動的な授業で、文法的なことや学問的なことを学ぶというよりも日常的なコミュニケーションを学ぶことを重視した授業であると感じました。授業はオーストラリア、イギリス、マレーシア出身の先生方によって行われ、様々な訛りを聞くことができ、多様な英語に触れることができました。クラスメイトはほとんどの場合同じ日本人でしたが、週に何回かチェンマイ大学の学生に混じって授業を受ける機会があり、そこではタイの学生との英語によるコミュニケーションできました。また、授業だけではなく、これは個人的な意見ですが、チェンマイは少なくとも日本よりは英語学習に適した環境だと思います。チェンマイは観光地なので英語が比較的通じます。自分の英語の能力が低いのもありますが、タイでの生活の中での簡単な英語のコミュニケーションは自分にとって非常に実践的なものでした。

次にタイでの生活についてですが、当然のことながら日本と異なることが多く、慣れるまではとても刺激的でした。路上にある屋台から漂う独特なおいや大量のバイクの騒音、ありとあらゆるところに存在するタイの国王の写真や物価の安さなど、挙げればきりがなほどの違いがあります。百聞は一見にしかずというように、異文化を知識として知っていることと実際にそこで生活するということの間には大きな隔たりがあると実感しました。異文化を理解するという点ではなかなか貴重な体験をしたと思います。

課外活動についてですが、最も印象に残っているのは象と触れ合うアクティビティです。象の背中に乗ったり、一緒に水浴びをしたりしました。タイ研修を通じて、最も衝撃的で刺激的でした。象はタイのシンボリックな存在ですから、非常にタイらしく大変印象に残るアクティビティだと思います

研修全体を通して

タイへ出発する前は、海外で1か月ほど生活するということに対して、漠然としたビジョンしか持てず非常に不安だったのを思い出します。しかし、その不安はタイへと出発する初日がピークで、そこからは不安もなくなり非常に濃密で貴重な体験ができました。研修の印象としては、やろうと思えば意外となんとかなるというレベルのちょうどいい研修だったと思います。英語での意思疎通も拙いながらもできましたし、タイでの生活もカルチャーショックを感じつつも適応することができました。失敗したと思ったことを1つ挙げるならば、英語を事前にもっと勉強すべきだったということだけです。日頃の英語の蓄積はコミュニケーションするうえで重要ですし、自習する時間もあまりないので基本的な学習は出発前に済ましておくべきでした。そのことを除けば、不満点はほとんどありません。全体を通して、タイでの研修は素晴らしい体験だったと思います。